
junior high school life

青春サイコー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

junior high school life

【Zコード】

N6133Z

【作者名】

青春サイコー

【あらすじ】

私立青山学園で、主人公野上恭弥を中心に恋愛あり、戦いありの学園小説。

スタート（前書き）

書き方も、人称もころころ変わってしまいますが、楽しんで読んでいただければうれしいです。

スタート

俺は野上恭弥。ノガミギヨウヤ一応主人公。

私立第十八青山学園1年A組で、卓球部のエースだ。

身長がクラスの中でもっとも低いこと以外はいたって普通の人間のはずだと思っている。

あることを除いて……だが

彼は今、1つの問題に直面していた。

「・・・

「・・・

場所は学園の屋上。

そこでは二人の生徒が向かい合っていた。

片方は恭弥。

もう片方は恭弥の同級生、夜神卓斗。

これから繰り広げられること。

それは・・・簡単に言うと「喧嘩」だった。

夜神卓斗
ヤガミタクト

1年A組。バスケ部のHースである。
彼は同じクラスのある少女に思いをよせていたのだが…。

実は恭弥も卓斗と同じ少女に思いをよせてているのだった。

何故この一人が戦うことになったのかといつと…

（一時間前）

恭弥と卓斗が思いを寄せている少女は、
二人と同じクラスで吹奏楽部の実力派、
沢尻鏡花サワジリキョウカである。

卓斗は彼女に愛の告白をしたのだった。

その結果は…

卓斗「鏡花さん、好きです。付き合つて下さい！」

鏡花「え…あの、『めんなさい。友達のままでいてくれませんか…』

…予想通り惨敗だったのだが。

卓斗が告白したことを知った恭弥は、なぜかそのことにブチ切れ
卓斗に喧嘩をふっかけたのだ。

ところでの状況を説明している俺は、卓斗たちと同じクラスで
カンザキコヨリ
神崎暦といつ…

つて説明している場合ではない。

この喧嘩は俺にはとてもじやないが止められはしない。

なんたつて卓斗の野郎、素手の喧嘩じゃ学年でもトップクラスに強い。

恭弥の奴は、150cm後半くらい」という比較的小さい体から誤解されがちだが、喧嘩となればかなりやばい。

今もあいつの両手の中にある、人の腕ほどの太さの巨大な螺子…。あれを体中に仕込んで武器として扱うらしい。

それ以外にも、様々なサイズの螺子を、結構な量持つてるとか。あれで刺されたら痛そうだな…。

この学園は結構やばい奴が多い。

俺も人の事は言えないが…。

と、そんなことを言つて、うちに動きやがつた。

恭弥（今持つてる螺子は…）「Sサイズ（腕一本分）1本、Mサイズ（腕二分の一本分）4本、Lサイズ（手の平サイズ）132本…。まあ大丈夫だろう…。）

恭弥がシミコレー シヨンを終えた瞬間。

ダンッ！

地面を踏み切る音がして卓斗の拳が恭弥の顔面に放たれる。

「… … …」

あまりの速度に驚愕した恭弥だが、とつたに身を捻りかわす。拳が空を切ると同時に、恭弥の耳元で風切音が響いた。

卓斗「よくかわしたな！流石、卓球部エース！」

恭弥「あんま関係ないじゃんかそれ！」

叫びながら恭弥は左裾から1本の螺子を取り出す。そのまま螺子の先端をタクトの太腿へと叩き込もうと腕を思いつくり伸ばす。

が、卓斗が後ろへ跳ぶのが一瞬早かつた。目標を失った螺子は虚空へと突き出され、突き出した恭弥は自らの勢いに体勢を崩してしまつ。

「…しまつた！」

このときを待つてましたといわんばかりに卓斗は前へと跳んだ。無論、拳を硬く握りながら。

卓斗の鋭い一撃が恭弥の脇腹に突き刺さる。

「ぐつ…」

痛みは脇腹を中心に全身に広がり、恭弥の行動を阻害しようとするとが、恭弥はそこで体中を奮い立たせて思いつき背を反らす。そして頬に脂汗を流しながら、自分の額を卓斗の頭に勢い良く叩き込んだ。

「…ツ…」

互いに距離をとつて呼吸を整える。

2人とも大きく深呼吸をして次の『一瞬』に備えた。

恭弥は前に走り出た卓斗に対しても
螺子を投げる！ 投げる 投げる 投げる 投げる 投げる 投げる
投げる 投げる！！

対する卓斗は流血こそするものの致命傷には至らない。
そして卓斗の硬く強い拳が恭弥の顔にふれようとした瞬間

卓斗「何…だと？」

卓斗の足下には大量の螺子が刺さり、動きを遮っていた。

恭弥「俺はこんな感じで相手の動きを遮る事が出来る。近距離戦には持つてこいなんだ。

つまり…ここで闘いが始まった時点でお前は負けてんだ。」

恭弥はそう言うと螺子2本で卓斗を壁に固定した。

恭弥「つ…やつぱり七星山との闘いはきつこな…」

七星山。それは第十八青山学園の一部の者達にのみ『えらし称号』である。

恭弥と卓斗、その他にも五人の実力者がいる。

卓斗は固定されていた螺子を自慢の怪力で取り外し、再び激しい戦

いが始まった。

卓斗は恭弥が投げてきた螺子をひらりとかわす。そして卓斗の拳は恭弥を狙うが恭弥もかわす。これがしばらく続いた。

けれど30秒くらいだらうか…この短い間に階段をものすゞい勢いで階段をかけ上がり卓斗の横を駆け抜けた人影があった。

「ガツキーンッ！－！」

木刀2つと螺子、拳がぶつかつたはずだが金属音が聞こえた。

？？？「そこまでだ」

恭弥「邪魔するな、リュウ」

卓斗「リュウちゃんおいたはダメだよー」

止めたのは日向龍一。卓斗、恭弥と同じ七星山の一人で剣道部のエースである。

なぜか竹刀ではなく常に木刀を持っている。性格は真面目で喧嘩を止めに入ったりもするが、やんちゃなときもあり、少し短気なところもあるためキレてしまつと自分から喧嘩を引き起こすこともある。

龍一「おまえらそりそろやめないと風紀委員長が来るぞ。」
卓斗、恭弥「！－！」

彼らが恐れている風紀委員長とは山本時雨ヤマモトトシグレといふ女子のことである。女でありながら、強く気が高い。そしてなによりも美しかった。学校の風紀を乱すものがいたら、そいつらは男女とわず病院送りになるといわれている。

この第十八青山学園のほとんどの生徒たちが恐れている人物だ。卓斗と恭弥も例外ではなかつた。

といひで現状に戻ると…

恭弥「しょうがねー。今日はこのくらいにしどくか…」

卓斗「クソが。お前が絡んできたくせしゃがつて。次きたら殺すからな。」

恭弥「へいへい。」

龍一「おい、そろそろ…」

恭弥「わーったよ。じゃあな。」

卓斗「またねーリュウちゃんのバーク。」

バシッ

龍一が卓斗の頭を殴つた。

卓斗「イテツ」

恭弥「あほが…」

そう言い残して恭弥は立ち去つた。

とりあえず屋上の騒さわぎはおさまつた。

だが、まだ一つ問題が残つていたのだった。

龍一「おい卓斗。これどうすんだよ。」

実は今の喧嘩で屋上の一帯を破壊していたのだ。

卓斗「放置！」

龍一「委員長に半殺しにされても知らないぞ。」

卓斗「おい、一緒に逃げるぞ。早くしろよ。」

卓斗は龍一を引っ張つて階段を駆け下りた。

1分後

風紀委員長は屋上に立ち悲惨な惨状を目にすることだった。

スタート（後書き）

これからも、続きを投稿して行きたいと思っています。
できれば、感想や一言をいただければ光栄です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6133z/>

junior high school life

2011年12月20日17時53分発行